

8 月報(2026 年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらし福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【2026 年平和行事に参加して】

豊田 稔人



私は、広島へ行く度に、ここは、原爆が落ちた場所なんだと思うし、市電なんかに乗っていて、向かいの席にお年寄りが座ってたりすると、この方も被爆者なのだろうかなどと、勝手に想像したりします。それで、8月6日に広島という土地の上に立つと、なんとなく特別な思いがするのですが、今年も、この時期に広島へ行けたことをうれしく思っています。

さて、平和行事の中の基調講演は、聖エジディオ共同体のアンドレア・バルトリさんが行ったのですが、講演終了後の質疑応答で、創造性という話になりました。平和を創るということですが、その中で、平和は、戦争の後に来るものだ、だから、壊れたものの後に新しく作ることになる、それを創造性と言っているというようなことを、おっしゃいました。順序として、戦争の後に平和なわけですが、これには、はっとしました。全くの平和のうちに生きてきた私にとっては、平和は平和であって、順序のうちにあるものではないのです。だから、平和は作るものではなく、守るものだったのです。

基調講演後、被爆 81 年平和祈願ミサに移り、福音朗読は、マルコによる福音(10・46-52)、私を憐れんでくれと叫び続け、それで多くの人々が叱りつけ黙らせようとした盲人の目を、イエス様が見えるようにしたという箇所でした。ヨゼフ・アベイヤ司教は、説教の中で、「イエスは立ち止まって」というところに注意を促し、この立ち止まったということが重要なのだとおっしゃいました。立ち止まるということは、相手に思いを寄せるということなのですが、それは、現代に住む私たちは、果たして、人に思いを寄せるために立ち止まることがあるのだろうかという問いでもあるのでしょうか。



そして、説教の後半、司教様は、無責任な祈りにならないようにと、おっしゃいました。無責任な祈りという言葉は、鋭く胸を衝いたように思いました。司教様は、平和は、祈るだけではない、それを行動につなげなければならないという意味でおっしゃったようですが、しかし、普段自分のしている祈りが責任ある祈りと言えるのだろうかという反省にはつながりました。祈りというものは、なにも平和を祈るだけではないのであって、いろんなことを祈る、しかし、その後に行動を伴わなければ、それは無責任な祈りだと非難されれば、答えようがないのではないのでしょうか。

また、広島・長崎という被爆地を抱える日本は、平和という言葉にとって特別な存在なのだという話もありました。以前は、8月になると、日本人は、「鎮魂の夏」と言ったものですが、何時かしら聞かなくなると、ここ数年思います。立ち止まって、戦争の被害者に思いを寄せ、その人々のために祈り、そして、平和のために自分に出来ることを小さなことでもやってみる、そういう「鎮魂の夏」が、再び、日本人の胸に宿ればと思います。

【街頭募金】

福祉部・野田 茂生

毎年、学校が夏休みに入る頃の日曜日の朝のミサの後、日曜学校の子どもたちと一緒に、街頭募金をやっています。今回は、6月におこった、フィリピン・ミンダナオ島沖とベネズエラ北部でおこった地震の被災者支援のために送金することにしました。どこに送るか迷いました。世界各所で大規模な自然災害が頻発しています。人が人を殺し合う忌まわしい戦争もやむことがあります。

今回フィリピンとベネズエラにしたのは、わずかひと月前におこったことなのに、急速に忘れ去られようとしているように思えたからです。日曜学校の子どもたち、それから大人の協力者の頑張りのもあり、教会内での募金もあわせて、40,000 円を集めることが出来ました。ありがとうございます。半分をフィリピンに半分をベネズエラに送りました。



これを書いている最中に、また熊本で大きな地震が発生しました。なんということでしょう！

被害の全容はまだ明らかになっていないようですが、亡くなられた方もいらっしゃるだろうし、怪我をしたり、家をなくした方もいらっしゃるでしょう。

これを受け止めて、自分ができる何かをすることにしましょう。

【わたしたちの国～兄弟姉妹の皆さんへ】

佐藤 紀子

今、ニュースが入りました。熊本地方の宇城市で震度 5 弱の地震です。今日が 8 月 1 日の夜なので 4 日前の 7 月 28 日夕方、震度 7 を熊本で観測、九州の皆様は暑さの中、眠れぬ夜を過ごされていることと思います。熊本は 10 年前にも大地震に見舞われました。酷暑という想像を越える暑さが予想される中、救護活動もままならない現実があります。明日、もしかすると私たち自身が被災をするかもしれない切迫感を心に抱きますし、どうして地球は、そして日本はこんなになってしまったんだろうと不安と底知れぬ寂しさとが、同時に心におしよせます。日本は小さな国、島国だよと教わったのは小学生の時だったか、夢がいっぱい詰めこまれたランドセルより、はるかに重く、あたたかく、この言葉を受け止めて学校に通った頃がありました。『隣人』とは、何でしょう？人を思いやる心弱い者への寛容さ等、浮かんできますが、何分利己心の強い面のある人間のことです。自分の事で、精一杯。現状を変える事も難しく、前を向けないでいる人もたくさんいると思います。生きていくのがやっと、吐露する心は毎日どこかに追いやられ、忙しさの中ニュースを見て又愕然とします。弱い私たちに何が必要なののでしょうか。こんな時に人は立ち止まり、自身の生き方を考え改めさせられるのだと感じています。

宿の無い人を迎えてくれる人はいないと思うけれど、私が変わればその人の友人となれるかも知れない。小さな一歩ですが希望を抱きながら、今日はあと少しだけ自分自身を省み、神様に近づく心を大切に思いながら眠ろうと思います。兄弟姉妹の皆さん、心の温かいことをどうぞ大事にしてください。私も明日、そしてまた次の日と信ずることを心に刻みます。

追伸：宮崎に住む友達が、私も家族も皆大丈夫と言っていました。それだけで心が明るくなりました。嬉しかったですと告げて涙がこぼれました。心が温かかったです。

【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】～ヘブライ人への手紙 12 章～

『このイエスは、御自分の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の王座の右にお座りになったのです。』

今日のヘブライ人への手紙と福音書を通して感じたメッセージは、「苦しみは恵みに、分裂は平和に繋がる道」だということです。

私たちの人生における苦しみは、すべて天国を得るための試練なのです。イエスが十字架の苦しみを受け、復活したことによって、私たちに救いを約束して下さったからこそ、私たちの苦しみが苦しみに終わることなく希望を持つことが出来るのです。これは、素晴らしい恵みです。

私たちの回りには、いろいろな苦しみの中で希望も持てずに絶望のうちにいる人がたくさんおられます。その人たちに、イエスによる救いの希望を伝えることが出来たらと思います。

私たちには希望があります。イエスに信頼し希望する恵みがあるのです。

今、世界は分裂の苦しみにあえいでいます。私たちは祈ります。「苦しみは恵みに、分裂は平和に繋がることを。」

明日は、主日に隠れ消えてしまったのですが、マリシミアノ・コルベ神父の祝い日です。隣人の身代りに自ら死の苦しみを受けた聖者の模範に倣い、私たちも平和の使徒となることが出来ますように。

『友のために命を捧げること、これより偉大な愛はない。』

【南相馬便り】2026 年 8 月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村 令子



福島県伊達市霊山町の霊山（りょうぜん：標高 825 メートル）伊達市と相馬市の間にある名山

八月は山の日がありますね。

こちらの山についてはあまり詳しくないのですが、まだ常磐線が全線開通していない時には、福山への往復に、福島駅まで新幹線に来て、福島駅から東北アクセスというバスで、南相馬原町まで帰っていました。バスで 1 時間 45 分くらいかかっていました。途中トイレ休憩に、霊山（りょうぜん）という山のふもとの道の駅に停まります。とても美しい山で、霊山【れいざん】という雰囲気のある山です。一度カリタスのメンバーと一緒にいったことがあります。山には登らなかったのですが、シスター馬場と聖心会のシスターが登山者の恰好だけして、霊山【れいざん】に登ったことにしました。その時の写真がこれです。

霊山（りょうぜん）というと、私は小高の一人の方を思います。その方、N さんは、小高で洋装店を開いておられます。N さんの震災の時のお話を伺って感動しました。

N さんの洋装店は、その当時小高にあった小高商業高等学校と小高工業高等学校の制服を引き受けておられました。大震災が起こったのが、3 月 11 日。新年度に向けて制服の準備をしていた時です。彼女がどういういきさつで霊山町に避難されたのか忘れましたが、小高から約 71 キロ離れた霊山町に避難されました。

彼女の心には、二つの高等学校の「新入生の制服を届けなければ」という思いが強く、ご自分が避難者であることも忘れて、小高と霊山を何度も往復して、生徒達に制服を届けようとしますが、高等学校そのものが放射線被害のため移転していて、探し当てて行っても、学校も機能して



いなくて、新入生の名簿なども、なかなか手に入らず、新入生たちもどこに避難したかわからず、気をもむばかりで日にちが過ぎていきました。小高工業高等学校の仮設校舎は、南相馬市スポーツセンターのサッカー場内に移転していました。4月の入学式までに、小高と霊山、原町と霊山を往復し、「地球を何周したかと思うほど走り回りました。」と。

新入生の人生の大切なスタートの日を、祝福された日にしたいと、奔走される N さんの何と優しい思い、何と勇敢な行動かと感激しました。自分の被災者としての心配事を棚に上げて、他人のことを第一に考えて行動すること。お仕事とはいえ特殊な事情のこの時にも、若者の新しい門出に汚点のないようにとの心遣い、責任感に本当に心から感動しました。

現在も、居住者の少なくなった小高に帰って、洋装店を続けておられます。

震災後、この二つの高等学校は合併して、小高産業技術高等学校となって、原町や、相馬など他の地域から高校生が通ってきます。小高に高校生が何人住んでいるのでしょうか???



わたしの召命物語（続編）

1967 年 7 月 16 日カルメル山の聖母の祝日に福山修道院で 5 人で初誓願を宣立しました。

長府修道院に帰って、間もなくのこと、北九州小倉教会のボネ神父さんから、高校生会のキャンプの手伝いをしてほしいと連絡があり、シスター斎藤と私とが行くことになりました。

九州でも高い山で九重山に登ることになりました。

学校に勤めていた時は、中学校 2 年生のキャンプで、テント生活をしたことがあります。まだ、誓願を立てたばかりで、キャンプの経験がなく、ちょっと不安でしたが、ボネ神父のリードなので安心してついて行きました。キャンプ場に到着してすぐテント張りをしましたが、空の雲行きが怪しくなってきました。ボネ神父が、「テントの周りに溝を掘れ」と命令して、掘り終わった時、ザーッと雨が降って来て、みんなテントの中に潜りました。幸い、通り雨のようで、しばらくすると止んだので、夕飯の支度にかかりました。その後どんなことをしたのかさっぱり忘れてしまいましたが、一つのことは忘れられない思い出として残っています。

翌朝、私は早く目が覚めて、テントから出て朝の新鮮な空気を吸いながら黙想をしていました。4時半過ぎごろだったと思いますが太陽が昇って、昨晚の雨で、周りの草に置いた露が朝日に輝き始めました。一面ダイヤモンドの輝きも足下に及ばないほどの美しさです。その美しさに、私は時間も考えずにテントをたたいて「みんな、起きなさい、早く！」と、みんなをたたき起こしました。高校生たちが寝ぼけ眼をこすりながら起きだして、この光景に「ウォー！スゲー！！」と。大自然の美しさに魅了され、誰もたたき起こされたことに文句を言う人はいませんでした。神父さんも私の後先を考えない行動をとがめることなく、高校生と一緒に感動してくださっていました。「天は神の栄光を語り・・・」

みんなよい黙想が出来たと思います。キャンプの思い出でした。

修道院に何日ぶりに帰って、玄関のベルを押して、出てきたシスターの驚きように私たちの方が何事か？といぶかしげな顔をしていました。私たちは日焼け止めのクリームを塗るとか、そんな世の中でやっていたことを忘れてしまっていたので、真っ黒に日焼けして、顔や腕の皮膚がボロボロに剥けて、サンザンな姿をしていたようです。(笑)😂😊(๑'ㅂ'๑)

「私の太陽、それは神です。私があえておそばにとどまり、落ち着いてじっとしていれば、神は私を清め、温め、癒してくださるでしょう。

太陽はいつも輝いています。

神を愛し、眺め続けるならば、私は神からすべてを補っていただくでしょう。

私の太陽のためにすべてを忘れ、私の太陽からすべてをいただき、

私の太陽とともにすべてを行いましょう。

私の太陽のためにいつも働くこと、それは私の憩、

私の太陽について話すこと、それは私の唯一の楽しみです。」(マリー・テレーズ・ド・スピランの祈り)

こうして、この祈りを深く味わうことが出来るのです。

【8月・9月の行事予定】

8 月		9 月	
5(水)	広島平和行事 バス参加	すべてのいのちを守るための月間 9/1～10/4	
6(木)	主の変容	6(日)	アンナシメオン会 ミカエル金神父様霊名のお祝 日曜学校始業式
8(土)	福山空襲記念日追悼		
9(日)	長崎原爆の日		
14(金)	聖マリア・コルベ司祭殉教者	14(月)	十字架称賛
15(土)	聖母マリアの被昇天	21(月)	広島教区の日・金銀祝

【編集後記】

今、修道院では『福者マリ・テレーズ・ド・スピランの列福 80 周年』の祈りを続けております。これを『ジュビリーの祈り』として私たち信者にもすすめられています。その祈りの中に“私たちの生涯が賛美と感謝の歌となりますように”とあります。そういう生き方ができれば……と思う今日この頃です。(T・N)